

令和2年度の

まちづくり

重点政策と予算状況

一年間のまちづくりの方針を示すのが町政執行方針です。

そして、それを実行するために必要なのが予算です。

その内容を審議する町議会第1回定例会が3月4日から11日まで開かれ、予算案などが議決されました。

今月号では、若狹靖町長が初日に行った町政執行方針、酒井裕之教育長が行った教育行政執行方針、そして令和2年度予算の概要をお知らせします。

※東京オリンピック・パラリンピックの開催については、1年程度延期され、遅くとも2021年夏までに開催されることとなりました

町政執行方針



厚岸町長
若狹
靖

はじめに

令和2年厚岸町議会第1回定例会の開会に当たり、町政執行に関する私の所信を申し上げます。

本年、厚岸町は、明治33年に北海道1級町村制が施行され、新たな行政組織として歩み始めてから120周年を迎えるに至りました。

厚岸町は、恵まれた自然環境の下、基幹産業である漁業と酪農業をはじめ、豊富で多彩な資源を最大限に活かすことで、人々の生活の基盤を築きながら歴史ある文化を育み、今日の「厚岸らしさ」を感じるまでに発展を遂げてきました。先人たちのたゆまぬ努力と郷土愛によって守られてきた、これらの貴重な財産を後世に引き継ぐため、私たちは最大限の努力をしなければなりません。

また、本年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催※され、日本中が大いに盛り上がる年であるとともに、厚岸町においても、水産業の歴史的な転換点となる国による衛生管理型漁港施設完成に伴う厚岸漁業協同組合地方卸売市場の移転、「厚岸ウイスキー」の本格出荷、さらには、宿願であった厚岸道立自然公園の国定公園化と北海道横断自動車道「尾幌糸魚沢道路」の早期着工にも期待が高まる大きな節目の年であります。このような大きな節目の年を町制

施行120周年と同時に迎えられることは、厚岸町の舵取りを担う私の大きな原動力にもなっており、この記念すべき年を厚岸町の新時代の始まりの年と考え、自信と誇りを持って、全身全霊で職務に邁進してまいります。

町政に臨む基本姿勢

厚岸町は今、大きな変革の時代を迎えようとしており、特に本年は、厚岸町が飛躍的な発展を遂げるための極めて重要な年であります。

私は、先見性と積極性を基本に、どんな困難があってもそれを克服するため、町民の皆さんと共に手を携えながら、たゆむことなく挑戦すること、町長5期目の集大成として、町民の皆さんとの約束を果たすとともに、この大きなチャンスをつかみ取り、厚岸町の未来を切り拓いてまいります。

また、本年度は、『めざすまちの姿』に『みんなの「あつけし」新時代の創造に向かって』を掲げた、厚岸町の今後10年間の『道しるべ』となる『第6期厚岸町総合計画』がスタートする年でもあります。町民の皆さんと共に創り上げた本計画に基づき、「人口減少対策」「防災・減災対策」「産業振興」の3点を重点施策として推進し、町民の皆さんと共に厚岸町の新時代を